

■委員長挨拶により開会。

●まず、四万十市立中村中学校において、学校の概要や現状、ICTを活用した授業についての説明を受け、意見交換し、視察を行った。

意見交換

【説明：山崎中村中学校校長】

1 今年の生徒の概要

生徒総数 415人

クラス数 1年：4、2年：5、3年：4（各学年1クラス定員35人まで）

生徒数が少しずつ増えてきている。その要因は、1つには学校再編が進んでいること、もう1つには、本校は幡多郡内の中でもいろいろな部活があり、その部活動へのニーズや保護者の仕事の関係で本校に通う生徒がいる。

2 教職員の概要

県の配置では34人。それと、就学援助を受ける家庭が100を超える場合、事務職員の加配がある。また、統合加配というのもある。その他、市より支援員にも来ていただいている。

この他に、週2回スクールカウンセラーが来ていること、SSW(福祉又は家庭的な連携を図る方)も2名常駐している等、重層的に子供たちを支援しているというのが今の学校の状況。

3 本校のスローガン

高知県NO.1の学校を目指そうということで、子どもたちにもそういった気持ちで学校生活を送ってほしいと話している。また、生徒会に学校のスローガンを何にするか投げかけた時に、「誇り高く夢大きく心美しく」という言葉が出てきた。学校の校訓みたいなのところもあり、子ども達にも浸透しており、ぜひそういった子どもを育てていけたらと職員とともに考えている。

4 学校生活

学校教育の基盤は、信頼関係を結ぶことが第一歩と考えるが、まず、毎朝、職員と生徒会執行部が玄関で挨拶運動をしている。また、教職員が常に職員室にではなく、各フロアで宿題点検等の仕事をしながら、生徒を見守る等している。

どうしても数値で学力状況等を示され、本校生徒はその点においても成果を出し、力を付けているが、その基盤として、「誠実さ」や「意欲」、「やり抜く力」といったものが、高校生、大学生、社会人になり、将来、生きていく上で、本当に大事な力だと思っている。数値化できないが、子ども達にこんな力をつけたいと考えながら、日々、生徒に接している。

5 学力向上、授業改善

教科主任が中心となり、教科会を開いて授業内容を確認し、チームで授業の質の向上を目指している。また、1人の教員がある学年の全てのクラスを担当するのではなく、各学年のクラスごとに違う教員を配置する「タテ持ち」を実施し、テストや授業でも一定統一した内容とするなど、組織力を生かし、温度差や、ぶれの少ない学年教科経営をしていくよう取り組んでいる。

6 タブレット端末について

1人1台端末となっている。本校では、県教委が作成した「気持ちメーター」というソフトを使用し、子ども達が毎朝入力することで、教員側はクラスの一覧を見ることができる。授業では、導入当初は、主に調べ学習で使用していたが、現在では、教員が前で資料提示した際に自分の手元でも見られることやデジタルドリルを導入し活用している。

不登校等の生徒が自宅学習で活用することもある。

学校行事では、コロナ禍ということで、例えば卒業式を在校生は自席でリモートで見るとか、運動会等を配信し、保護者にも観ていただけるようにしたりしている。

教職員側としては、様々な研修等でリモートでの開催が大幅に増えた。また、テストやアンケートもタブレット上でいき、集計等の処理がすぐにできるようになった。

7 校務支援システム

自閉症、情緒等の生徒が増えており、不登校の生徒数も多い状況。そういった中で、子どもと繋がり、子どもとが難しければ、保護者と繋がって、克服できるよう努めている。

8 最後に

子ども達には、授業でわかる喜び、その中で自信をつけさせ、将来の夢と希望を持たせたい。勉強への意欲を高めて、数値としたら学力という形になるが、学力だけではなく、人間性を高め、本校での3年間を過ごし、送り出していきたいと考えている。

【質疑：大西委員】

会議や研修は、年間で何割くらいリモートに変わったか。また、生徒の家庭の通信環境によって、学力の違いはあるか。

【答弁：山崎中村中学校校長】

リモートでの会議等は、概ね8割。本校で行うときと、近隣の学校が1つの学校に集まって開催される場合がある。昨日も大方高校で集まりリモートで研修会をした。

導入しているデジタルドリルは、市教委の配慮により、「ラインズ」というソフトで、通信環境が無くてもできるもの。学校で教材をダウンロードし、持って帰って自宅で学習するという形。

【質疑：澤良宜委員】

生徒数が少しずつ増えているということだが、生徒間や教員の中で、何か問題点又は良かった点等あれば伺いたい。また、気持ちメーターは、どういった質問、内容なのか。

【答弁：山崎中村中学校校長】

生徒が増えたことによる問題は、過去の統合の事例を見ると、統合して2、3年は、生徒指導の問題が多く起こることが多かった。つまり、統合したことで、学校の中で喧嘩になったり、いろんな問題行動があったりしたというのがあったため、学校としては、できるだけ安定した統合を目指そうという形で、1番、最大限に配慮したところである。小学校から交流学习も行っていた。実際再編された後、人数の少ない学校から入った生徒は急に大人数になるため集中できない等環境への戸惑い等が、特に1学期には見受けられたが、トラブルは非常に少ない状態であり、スムーズにいけていると認識している。

気持ちメーターについては、簡単な質問に「良い」「ふつう」「やや悪い」「悪い」とマークを付けるだけの簡単なもので、そこへ1言2言、自分の気持ちを入力する生徒もおり、教員は、クラス全体の状況や気分の上がり下がりが一目でわかるようなもの。

【質疑：上岡委員】

自閉症や情緒の生徒の中に、統合した学校の生徒はいるか。

【答弁：山崎中村中学校校長】

人数が多い少ないということではなく、どの学校でも一律に一定数いる。

【上岡委員】

多様化の中で、子ども達のために一生懸命教育していただいていることはわかっている。いるかないかだけ聞いたかった。

【質疑：廣瀬委員】

不登校の生徒のうち、一切学校に来ていない生徒はいるか。

【答弁：山崎中村中学校校長】

現段階で、ほとんど登校できていない子どもは2人。学校として目標を立てていることがあり、1つは、昨年度よりも1日でも登校日数を増やすこと。2つ目には、子どもは、どこかの段階で、一歩踏み出そうとする時期が来るもの。その時期を見逃さないために、学校に来ている子どもも来ていない子どももきちんと何らかの形で繋がるということ。子どもと繋がれない場合は、保護者と繋がるという形でやっている。当該2人には、スクールカウンセラーが定期的に家庭訪問したり、SSWが行ったりという形で対応している。この子達が家で何をしているか全くわからないという状態はない。

【質疑：川淵委員長】

完全不登校の2人は、統合や再編をしたことがきっかけで、中村中学校へ来ることになった生徒か。

【答弁：山崎中村中学校校長】

違う。

視 察

英語、理科、国語の授業を参観し、理科では実験にタブレットを活用しており、また、タブレットを用いて自分の考えを発表する姿を確認する等、様々な活用方法の授業を視察した。

※最後に川淵委員長がお礼の挨拶をし、視察を終了した。

●次に、下田小学校及び下田中学校において、小学校ではICTを活用した授業について、また、中学校では移設後の生徒の様子について、それぞれ視察を行い、意見交換を行った。

視 察

下田小学校

様々な学年の授業を参観し、大型ディスプレイに生徒のタブレットを繋ぎ、生徒がタブレットを操作しながら発表して皆で共有する場面や、タブレット内の問いに各自回答する等、様々な活用場面を視察した。

下田中学校

授業している様子を視察した。

意見交換

【柴田下田小学校校長】

中学生が校舎3階に来て、当初は心配したが、あっという間に馴染み、小学生と中学生と一緒に遊んだり、小学校の運動会では中学生がいろいろ助けてくれ、今では慣れて「1つの学校」という感じ。

【質疑：澤良宜委員】

中学3年生は、女子が1人だったが、友達の面で問題はないか。

【答弁：山沖下田中学校校長】

小学生のときには、同級生にもあと2人女子がいた。休み時間は、女性教員が必ず様子を見るようにしている。また、2年生に女子が3人いるので、遊んだりもしている。その3年の女子生徒はワーワーする感じの子ではなく、逆に3年の男子生徒3人は明るすぎるので、一緒には遊んでいない。悩んでいるときもあるようだが、今もネットで別の学校に行った子ともずっと繋がっている。他の中学校へ行った子から、誘いはあったようだが、本人が、「私はここで自分の力をつける。それで高校で一緒になろうね。」と言ったようで、本校に通うことは、本人の強い意志があったようだ。

【質疑：大西委員】

小学校と中学校が一緒になったことで、何か特別なことをしたことはあるか。

【答弁：柴田下田小学校校長】

教科では、6年生の英語に中学校の教頭先生（英語担当）が来てもらっている。また、放課後の体力づくりの取組みで、小学生の希望者が中学の陸上部と一緒に陸上の練習をしている。そういったことが、教科や指導の連携だが、他にも、小学校の行事を中学校の先生が助けてくれることもある。

【答弁：山沖下田中学校校長】

小・中でよくやっている、中学生の読み聞かせは、今までは、できていなかったが、今は、中学生が、概ね月2回行かせてもらっている。生徒自身が、小学生に本を選び読み聞かせしている。また、休み時間は、一緒になって違和感なく遊んでいる。

【質疑：上岡委員】

小学校2、3年生の複式授業は、やはり大変ということが少し見ただけでわかったが、教育委員会で何か考えはないか。

【答弁：山崎学校教育課長】

小学校は、市街地の学校以外は小規模化してきている。完全複式でいうと、6学年あっても、3学級、1・2年、3・4年、5・6年という形で、完全複式になっているところもある。複式は複式で良い面もあると認識はしているが、小規模化になった場合は、教員の定数も限られ、やむを得ない場合もある。各学校で、いろいろ工夫していただきながら、教頭先生が1クラス持ち、複式を解消している学校もあるし、各学校でいろんな手だてを打っていただいている。ただ、中学校は、複式には、なるべくならないように進めてきているが、小学校は、地域にどうしても残したいという思いが、市長、教育長の中にもあり、今の段階ではやむを得ないところもあるが、教育委員会としても、できるだけの手だてをしていけたらと思っている。

【質疑：上岡委員】

何人から複式になるのか。

【答弁：山崎学校教育課長】

2学年で16人。

【答弁：柴田下田小学校校長】

1年生を含んだ場合は、8人以上となる。人数も、上になると16人と増える。2学年足しても、なかなか到達できないため、1年生が単式になり、1年生を単式にすると6年生も単式になり、あとは教頭に1クラス持っていてもう1学年解消できるということで何とかやっているが、それでも1つは複式が残ってしまう。

【答弁：山崎学校教育課長】

単式を考えれば、教頭に入っていただくというのが1つの手だてだが、教頭がクラスを持ってしまおうと本来の教頭としての仕事ができにくくなる部分が、新たに大きな課題となってきている。

【質疑：川淵委員長】

教員の人数にかなり制限があり、他校の教員が来られることがあると聞いている。また逆の場合もあると。そういった点でも大変な状況があるが、困っていることがあれば伺いたい。

【答弁：山沖下田中学校校長】

国で定められた定数がある。ただ、中学校は教科制で、免許のない教科、教えられないものもあるので、現在は体育と理科について、他校から来てもらっている。逆に、本校の国語の教員が大用中学校に週4日出ている。今年度は6人教員がいるが、来年さらに減ったときに、大用中学校は遠いので、出ている間、その1人が不在となり、いろんな変更があったとき等、不在のままでは対応できないことがでてくるのが課題である。距離が遠いことを心配している。解消できないかもしれないが、来年は、見通しでは、私も含めて4人になるとのことなので、この教員が外に出るのは避けたいと思う。

【質疑：川淵委員長】

その辺り、教育委員会はどうか。やむを得ず、他校からというのはわかるが、もっと近いところということも考えられないか。

【答弁：山崎学校教育課長】

そうなれば、中村中学校、中村西中学校しか選択肢がないと思っている。小学校と違い1人の教員が全ての教科を教えることができない中で、定数が4となったときに、5教科すら教員を配置できない状況が小規模化によって起こる。これらが本当に子どもたちに環境的には、迷惑をかけている部分、また、教員にも負担をかけている部分だと教育委員会では認識している。その点で、学校再編について考えなければいけない時期に来ているというのが教育委員会としての認識である。ただ、まだ合意をいただいている部分もあり、十分、進められていない部分があるので、その点は、できる限り、残された子ども達に対して、ご迷惑のかからないよう、教員に負担がかからないように、手だてをとらせていただきたいと思います。制約があるため、許される範囲で、教育委員会としても、県教委にお願いしながら努力していきたい。

【質疑：川淵委員長】

中学生の水泳の授業は問題なかったか。

【答弁：山沖下田中学校校長】

飛び込みも基本的にはしないことになっているし、他校から来ている教員も体育専門の教員で、問題はない。

【答弁：柴田下田小学校校長】

小規模校であり、余裕を持って使えているので問題はない。ただし、施設面では、かなり老朽化してきている。

【答弁：山沖下田中学校校長】

施設面では、本当に苦勞されているだろうと思う。

【質疑：廣瀬委員】

浄化設備などは。

【答弁：柴田下田小学校校長】

かなりガタがきている。

【意見：廣瀬委員】

新しいものを作るのが難しいのであれば、不具合があるものはきちんとしてもらわなければならないと思う。

【質疑：川淵委員長】

避難訓練は、今はどのようにしているか。

【答弁：柴田下田小学校校長】

今は、いやしの里のほうまで逃げる練習をしている。そこは、第2避難場所、もしものための避難場所であった。前の中学校へ逃げてだめならという場所で、これまでは、年に1～2回、そこまで行くようにしていたが、今は、訓練のたびにそこへ逃げるようにしている。

【答弁：山沖下田中学校校長】

これまでは安心していましたが、地域の方に防災士がおられるので、木や地形等を確認しながら歩いて避難場所まで行く「防災散歩」をすることを計画している。

【質疑：廣瀬委員】

到達時間は何か。

【答弁：山崎学校教育課長】

17分だと思う。ただ、最初の5分は揺れから身を守ると考えたら、恐らく避難できる時間は12分程度と思う。

【答弁：柴田下田小学校校長】

小学生で、前の中学校まで上るのが4～5分。1年生でもここは走ってもらう。

【質疑：川淵委員長】

保育園児と一緒に連れていくというようなお話もあるか。

【答弁：柴田下田小学校校長】

保育所からもお願いがあり、そういうことも計画している。

※最後に川淵委員長がお礼の挨拶をし、視察を終了した。

●次に、子育て支援センターなかむらに整備された一時預かり「ぴっぴ」の概要について説明を受け、意見交換し、視察を行った。

意見交換

【説明：武田子育て支援課長】

一時預かり事業とは、家庭での保育が困難な場合に一時的に預かる事業で、理由は、基本的には何でもOKとしている。

対象児童 四万十市に住所を有する保育所等に通っていない未就学児で、3か月以上のお子さん。里帰り出産や親族の看護等で、一時的に四万十市に在住されている方も対象。

利用方法 まず、事前に登録していただくが、そのときに、お子さんの健康状態やアレルギー等、配慮が必要なこと等を詳しく聞くこととしている。

利用したい日の7日前までに電話で構わないので申込みしていただき、利用申請書を利用当日に持ってきていただく。利用される前に料金を支払っていただく。

利用時間 平日の8時30分から16時30分までで、祝日等は除く。

利用料金 4時間以内1,000円。4時間を超えたときは2,000円。
減免措置…ひとり親世帯等に該当する場合は、半額

利用定員 3人でスタートしている。

利用回数 1か月当たり10回まで。

食事等 食事、おやつ等は、必要な場合は必ず持参していただき、食事等の与え方等を詳細に聞いて、与えるようにしている。

施設整備 約半年間かけ、約3,100,000円で整備した。保育室の床、壁、照明、トイレ、シャワーパン等の設備も整備した。

利用実績 開始より2か月の利用実績は、9月が21人、10月が27人で、主に低年齢児に利用していただいている。

職員体制 2名配置。預かりがない日は原則1名、預かりがある日は2名体制で保育している。

【質疑：廣瀬委員】

3歳児以上の利用については、保育所に通っていないお子さん等、全体は把握しているか。

【答弁：宇都宮子育て支援課保育係長】

3歳児以上で保育所に入っていない児童はいないと考えている。

【質疑：澤良宜委員】

登録数はどれぐらいか。

【答弁：渡辺子育て支援センターなかむら所長】

預ける前に登録してもらっているのがほとんどで、登録数は利用した人数と同じだが、何度も同じ人が利用してくださっているため、登録数としては、概ね利用者数の半分程度。

【質疑：上岡委員】

利用者に待機児童はいないか。

【答弁：宇都宮子育て支援課保育係長】

まだ年齢が小さいため、できるだけ家庭で保育をしたいという意思のある方だと思っている。そういう方が、どうしても預け先が必要というときに、こちらを利用していただいていると考えている。

【答弁：阿部子育て支援課企画係長】

ニーズがどれくらいあるか把握するため、利用時に理由を教えてもらっているが、労働が理由という方は今のところいないので、待機児童という位置付けではないと認識している。理由は、ほとんどがリフレッシュで、一部、病院に通うためという方等もおられる。

【質疑：澤良宜委員】

登録しておらず、急にきて、断らざるを得ないような方はいたか。

【答弁：渡辺子育て支援センターなかむら所長】

利用には、事前登録と必ず保険に入っていたいただくことが必要ということをもって周知していたし、電話で問合せの段階でも、そこまで緊急の方は今のところいない。

【質疑：大西委員】

担当課としては、当初の予想と現状ではどうか。

【答弁：武田子育て支援課長】

滑り出しとしては期待以上と考えている。

【質疑：大西委員】

この事業を知らない人もまだおられると思うし、クチコミ等で広まっていけば、これからどんどん増えていくような見込みか。

【答弁：武田子育て支援課長】

そういう見込みである。

【質疑：平野委員】

今まで利用されている方はどの地域の方が多いか。

【答弁：渡辺子育て支援センターなかむら所長】

地域別にはまとめていないが、支援センターをこれまで利用していた方の地域もまちまちであり、それと同様で、お住いの地域、地区は、様々な感覚がある。どこかに偏っているような感じはない。

【質疑：平野委員】

職員の定数は、保育士2名か。

【答弁：武田子育て支援課長】

配置としては2名で、1名は保育士資格あり、1名は資格なし。

視 察

実際に一時預かりを行う保育室、トイレ、シャワーパン等の整備状況及びバウンサーや緩衝マット等の保育用品等を視察した。

※最後に川淵委員長がお礼の挨拶をし、視察を終了した。

■委員長報告の作成を正副委員長に一任し、委員会を終了した。